

背景

地区防災計画は、災害時の住民同士の共助のための計画であり、地区ごとに自由に策定できるものである。地域住民が主体的に計画に参加するため、市町村や都道府県が策定している地域防災計画に比べて地区の特性を取り入れながら、より住民目線の計画にすることができる。しかし、栃木県では地区防災計画を策定している地区の少なさが課題となっており、今後未策定の地区に普及させていく必要がある。

目的

地区防災計画を策定する際の流れや必要な準備などを整理し、県が作成する地区防災計画策定に関するマニュアルに対して意見交換、提案を行い、地区防災計画未策定の地区に対して有効なアプローチの方法を検討することを目的とする。

方法

1stcycle

- ・栃木県における過去の災害事例や地区防災計画について調べた。
- ・地区防災計画の策定が進んでいる上三川町石田地区にヒアリングを行った。

2ndcycle

- ・各地域への質問内容を考え、栃木県内の自治体へのアンケートを行った。
- ・アンケート結果を整理し、その結果からヒアリング先の候補を出した。最終的に宇都宮市瑞穂野地区、壬生町城址地区、高根沢町太田地区にヒアリングを行った。

3rdcycle

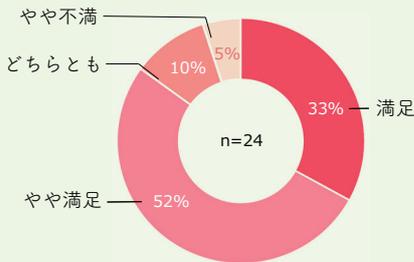
- ・分析結果をもとに、計画策定ポイントを提案する



写真1 1stcycleにおけるヒアリングの様子

分析結果

アンケート結果：地区防災計画への満足度



85% 満足・やや満足と回答した市町住民が意欲的に計画策定に参加している住民の合意のもと作成されている

15% どちらとも・やや不満と回答した市町計画策定に住民が積極的に参加していない策定には至ったが、機能するまでには至っていない

ヒアリング結果：地区防災計画を策定する際に工夫したこと

① 高根沢町太田地区

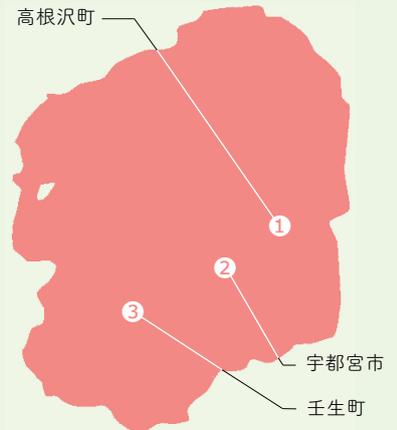
防災士の方などに積極的に活動してもらい
難しい言葉などを使わない

② 宇都宮市瑞穂野地区

地域の人に理解してもらえ
るようなものを作る
地区の特性に合わせた計画

③ 壬生町城址地区

防災訓練への参加の呼びかけ
複数の自治体で策定
普段お祭りを合同で行う



分析結果より住民の防災意識の低さ、住民の防災における知識不足を改善するために、計画の策定方法の工夫や内容の充実が必要と分かる

提案

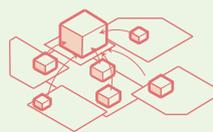
計画の策定方法



住民の理解

目的
災害が少ない地域においても住民の理解を得て地域全体で地区防災計画をつくる

提案
住民用に簡略化した地区防災計画を配布



自治会同士の連携

目的
いざというときに自治会同士で助け合えるようにコミュニケーションをとる

提案
合同での避難訓練やイベントを開催する

計画内容の充実



防災訓練

目的
防災に関心がない人や子どもといった層の、防災訓練へ参加率を高める

提案（プログラム例）
① テント泊体験
② 防災グッズ体験
③ 火起こし体験



情報伝達

目的
特に大学生など若い世代を対象に連絡網を受けられない人に対する伝達手段を増やす

提案
TwitterなどのSNSを利用した情報伝達をする

展望



図1 栃木県と一緒に作成したマニュアル

このポスターは、図1のマニュアルに掲載して、策定する際の参考にしてもらう